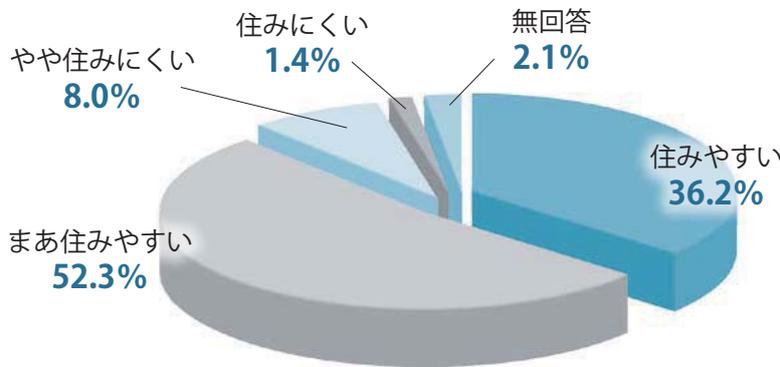


ふれあいアンケートの結果

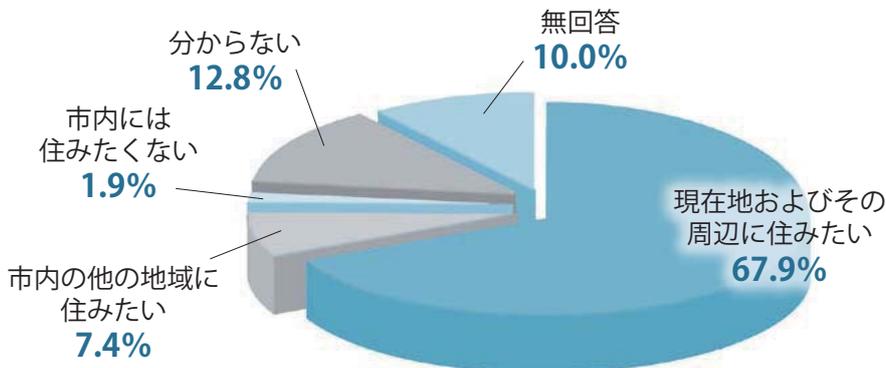
市では、市民の意見を市政に反映させるため、7月に「ふれあいアンケート」を実施しました。今回は、20歳以上の約13万人の市民の中から無作為に選んだ4,000人を対象に、都城市の住み心地や健康づくり、窓口業務、総合文化ホール、国際交流・多文化共生、定住促進、市政への要望について調査を行いました。回答者は1,407人で、回答率は35.2%でした。詳細な結果は、市のホームページに掲載しています。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎ 23-3174

Q 都城市の住み心地をどう感じていますか？



Q これからも都城市に住み続けたいですか？



◎解説
住み心地については、88・5割の人が、都城市は「住みやすい」「まあ住みやすい」と感じていて、前年度の調査より0・1ポイント低くなっています。

年代別に見ると、「住みやすい」「まあ住みやすい」と答えたのは、60代の93・5割が最も多く、逆に最も少ないのは20代の82・8割でした。

地区別に見ると、「住みやすい」「まあ住みやすい」と感じている地区の上位は、横市地区（97・2割）、庄内地区（93・1割）、高城地区（92・7割）となっています。

逆に、「住みにくい」「やや住みにくい」と感じている地区は、高崎地区（18・6割）、西岳地区（15・8割）、山之口地区（15・7割）で高くなっています。

《回答者の内訳》

◇男女別

性別	回答者	比率
男性	570人	40.5%
女性	809人	57.5%
無回答	28人	2.0%

◇年代別

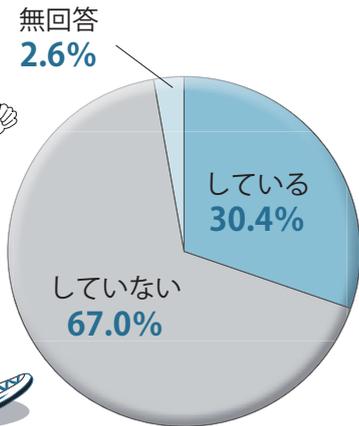
年代	回答者	比率
20代	105人	7.5%
30代	182人	12.9%
40代	181人	12.9%
50代	244人	17.3%
60代	385人	27.4%
70歳以上	293人	20.8%
無回答	17人	1.2%

◇地区別

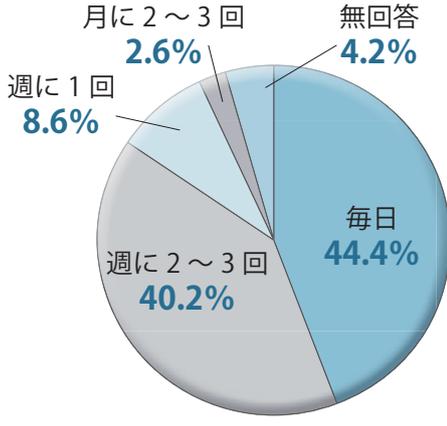
地区名	回答者	比率
姫城	118人	8.4%
小松原	104人	7.4%
妻ヶ丘	158人	11.2%
祝吉	142人	10.1%
五十市	143人	10.2%
横市	108人	7.7%
沖水	117人	8.3%
志和池	52人	3.7%
庄内	58人	4.1%
西岳	19人	1.3%
中郷	74人	5.3%
山之口	51人	3.6%
高城	96人	6.8%
山田	63人	4.5%
高崎	70人	5.0%
無回答	34人	2.4%

健康づくり

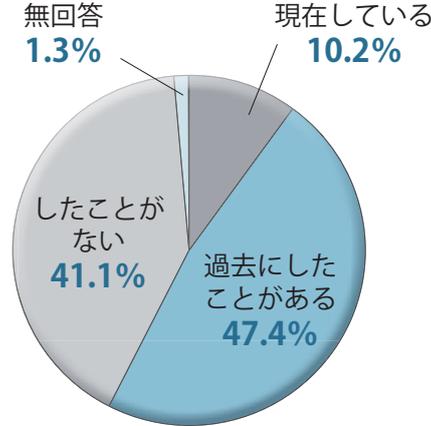
Q 1日20分以上のウォーキングをしていますか？



Q ウォーキングしていると回答した人にどのくらいの頻度で歩いていますか？



Q ステップ運動をしたことがありますか？

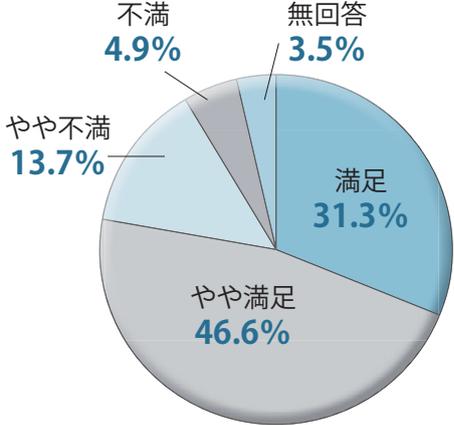


◎解説

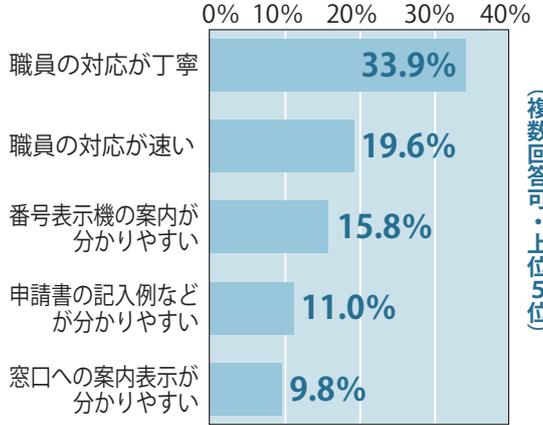
1日20分以上のウォーキングを「している」と答えた人は30・4割で、そのうち「毎日」歩いている人は44・4割、「週に2～3回」歩いている人は40・2割となっています。逆に「していない」と答えた人は、67割となっています。また、本市がウォーキングとともに推奨しているステップ運動（踏み台を昇り降りするトレーニング）の普及状況については、「知っている」と答えた人（50・9割）のうち、「現在している」「過去にしたことがある」と答えた人は57・6割となっています。

窓口業務

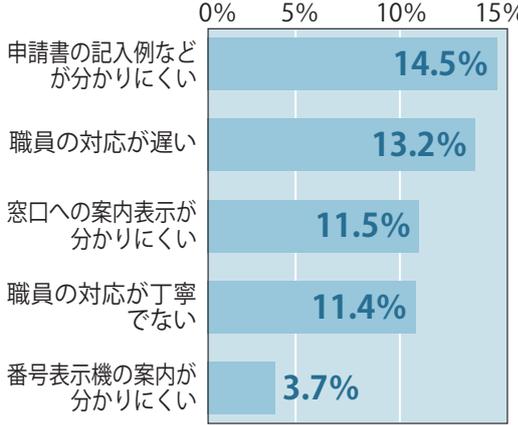
Q 窓口を利用して、どのよう
に思いましたか？



Q 窓口を利用して、良かった
と感じた点は？
(複数回答可・上位5位)



Q 窓口を利用して、悪かった
点は？ (複数回答可・上位5位)



◎解説

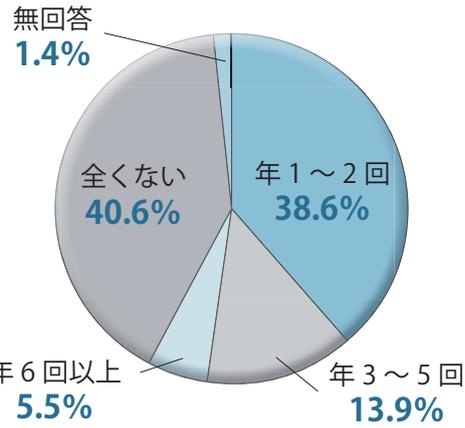
窓口を利用して「満足」「やや満足」と答えた人は、全体の77・9割となっています。また、窓口を利用して良かった点については、1位が「職員の対応が丁寧」、2位が「職員の対応が速い」となっています。一方、悪かった点については、1位が「申請書の記入例などが分かりにくい」、2位が「職員の対応が遅い」となっています。



総合文化ホール

Q

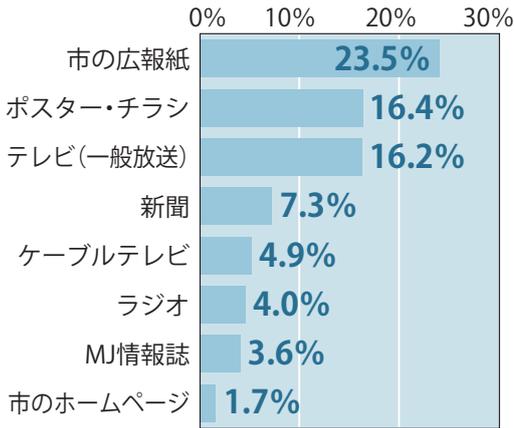
過去1年間に総合文化ホールを利用、または訪れたことがありますか？



Q

催し物の情報はどっやって入手しますか？

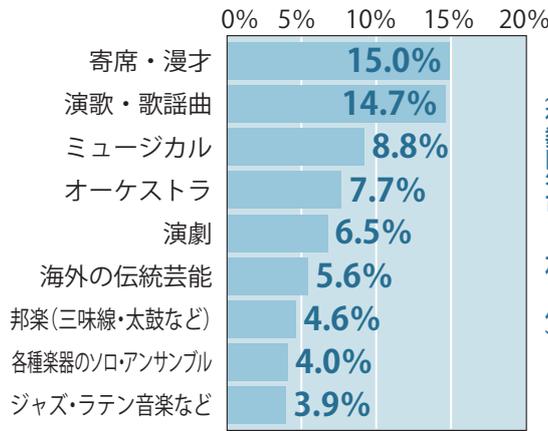
(複数回答可・上位8位)



Q

今後、どのような催し物を開催してほしいですか？

(複数回答可・上位9位)



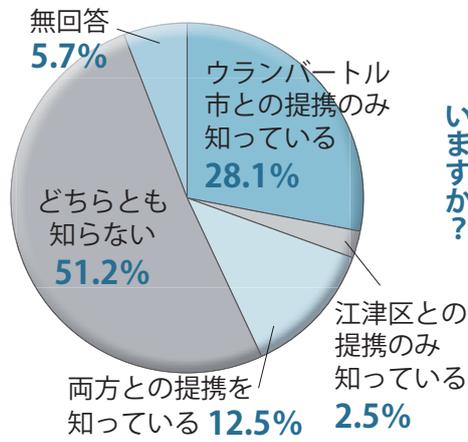
◎解説

過去1年間の総合文化ホールの利用回数については、「1～2回」と答えた人が38・6割、「3～5回」と答えた人は13・9割となっています。

催し物の情報の入手方法については、「広報紙」が23・5割と最も高く、「ポスター・チラシ」、「テレビ(一般放送)」と続いています。また、今後開催してほしい催し物については、1位が「寄席・漫才」、2位が「演歌・歌謡曲」、3位が「ミュージカル」となっています。

Q

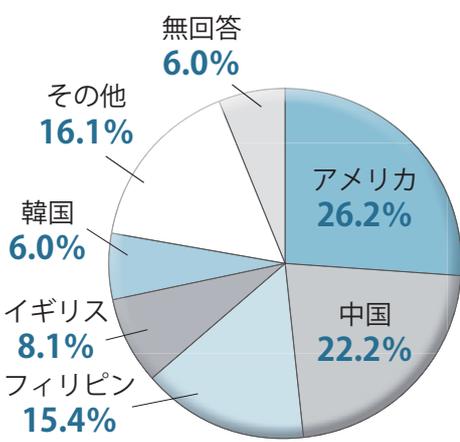
都城市が中国重慶市江津区やモンゴル国ウランバートル市との友好交流都市の提携をしていることを知っていますか？



Q

(外国人と交流があると回答した人) あなたが交流している外国の人の国籍はどこですか？

(複数回答可)



Q

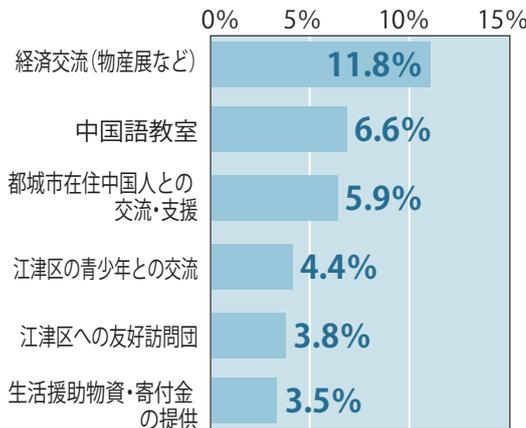
外国人との交流を進める上で、どのような取り組みが有効だと思いますか？

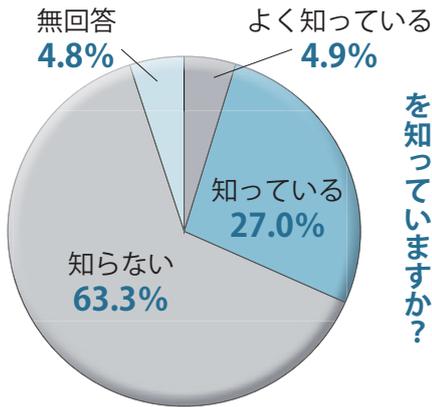
(上位6位まで)

◎解説

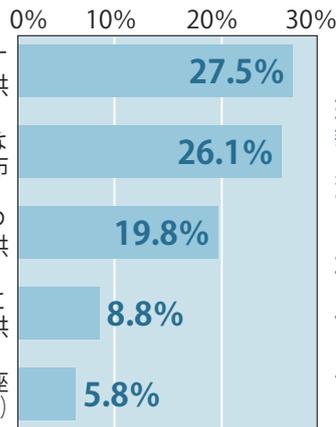
友好交流都市の認知度については、「ウランバートル市」のみが28・1割、「江津区」のみが2・5割、「両方を知っている」が12・5割となっています。

また、市内に住む外国の人と交流が「ある」と答えた人(8割)のうち交流がある外国の人の国籍は、1位が「アメリカ」、2位が「中国」、3位が「フィリピン」で、以下、イギリス、韓国、モンゴル国、インドネシア、パラグアイ、ブラジルなどとなっています。





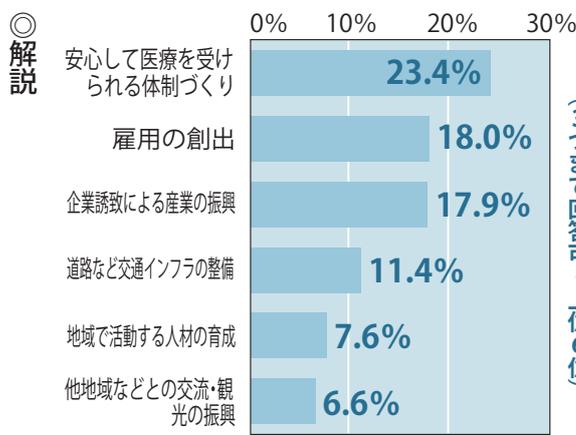
Q 本市が三股町や曾於市、志布志市と「都城広域定住自立圏」を形成していることを知っていますか？



Q (転入者を対象に) 都城市に転入したとき、どのようなサービスが必要だと思われましたか？

定住促進

◎解説 本市へ転入したとき、必要な情報については、「学校・病院」「市の案内マップ」「サービスの問い合わせ窓口」の上位3位で、73.4%を占めています。また、3市1町でつくる都城広域定住自立圏について「よく知っている」「知っている」と答えた人は、全体の31.9%となっています。定住を促進するために連携すべき分野については、1位は「医療体制づくり」、2位は「雇用の創出」、3位は「産業の振興」となっています。



Q 定住を促進するために、3市1町はどんな分野で連携すべきだと思いますか？

◎解説 昨年度の調査結果と比較すると、「商店街の活性化」が引き続き1位で、昨年3位であった「企業誘致」が2位へ上昇、また、一昨年度まで4年連続1位、昨年2位であった「福祉対策」は5位へ後退しています。



昨年と比較して特に順位が上昇したのは、「自然災害対策」が9位から7位へ、「交通安全対策」が14位から11位へ、「幹線道路やバイパスなどの整備」が17位から12位へとなっています。

性別で見ると、男性の1位が「企業誘致」、2位は「商店街の活性化」、3位は「生活道路や側溝の整備」が1位となっています。

地区別では、姫城・小松原・妻ヶ丘・祝吉・五十市・横市・沖水・志和池・中郷・山之口・高城地区で「商店街の活性化」、庄内・山田・高崎地区で「救急医療対策」、西岳地区で「生活道路や側溝の整備」が1位となっています。

市政への要望

Q 特に力を入れてほしいと思うものを5つ選んでください。(上位13位)